（様式3）

令和２年度（2020年度）公共事業再評価調書

基準年月日	令和２年８月１日

調書番号	07-01	所管部	水産林務部	作成責任者	水産林務部水産局漁港漁村課長　相原　正樹
				担当係	事業係（内）２８－３２４

Ⅰ　基本事項（基準日時点）

事業種別	漁港海岸保全事業（海岸堤防等老朽化対策事業）	地区名	古平（ふるびら）	市町村名	古平町

事業費	2,100 百万円	負担割合	国 55% 1,155 百万円	道 45% 945 百万円	市町村 百万円	その他 百万円

事業目的・目標

●古平漁港海岸は古平漁港の北側に位置し、当地区の海岸保全施設は、昭和４０年代に築造され５０年ほど経過しており、施設の老朽化が著しい状況である。また、高波浪時には施設からの越波が生じていることから、護岸の改良を行い、施設の老朽化対策と越波対策を講じるものである。

【アウトカム】等
●波浪による浸水被害を防護する区域
浸水防護面積　3.3ha→0ha

事業概要

海岸保全施設の老朽化が激しいL=276.8mの区間について、老朽化対策及び越波対策として、護岸の嵩上げ改良整備を行うものである。

工事費内訳

		（百万円）変更前	（百万円）変更後
計画延長	L=279.3m→L=276.8m		
護岸（改良）	L=279.3m→L=276.8m	730	1,700
測量設計費	測量、調査、設計	249	399
用地補償費	用地買収、物件補償	1	1
計		980	2,100

総合計画での位置付け

施策名	北海道の潜在力を活かす地域経済の循環	総合計画：大項目	経済・産業
総合計画：中項目	農林水産業の持続的な成長	総合計画：小項目	水産物の安定供給を担い地域を支える活力ある水産業・豊かな漁村づくり
施策目標	快適で活力ある漁村づくり	関連する指標	―

Ⅱ　公共事業評価経過

（単位：百万円）

事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累積事業費(b)	進捗率(b)/(a)
事前評価又は当初	H31 (2019)	H31 (2019)		H35 (2023)			980	441			
前回評価											
今回評価		R1 (2019)	R2 (2020)	R10 (2028)	1		2,100	945	0	35	2%

変更理由・内容

事業費の変更及び事業期間の延伸
(1)当初は、事前地質調査１孔を基に杭長を決定したが、採択後の詳細地質調査３孔の調査結果により、杭長が大幅に伸びたため。
(2)(1)により年間施工可能延長が減となり、工事諸経費が増嵩したため。

Ⅲ　事業採択前の状況

1．事業採択に至る経過と背景

●老朽化調査
H29年（2017年）９月：健全度評価　A（措置段階）
●施設被害状況
S57年（1982年）２月：高潮越波により背後家屋が被水
H27年（2015年）10月：低気圧に伴う高潮により背後家屋が床下浸水
H29年（2017年）10月：高潮越波により背後家屋が被水

2．事業検討の手続（住民ﾆｰｽﾞの把握等）

●S34年（1959年）2月　海岸保全区域指定（告示番号：第 265号、告示年月日：S34年（1959年）2月26日）
●S51年（1976年）6月　海岸保全区域変更（告示番号：第2024号、告示年月日：S51年（1976年）6月 2日）
●H29年（2017年）8月　古平町より古平漁港海岸保全施設整備要望。
●H31年（2019年）5月　事業採択

3．事業効果を及ぼす地域・対象

●防護区間：２７６．８m　●防護面積：　３．３ha　●防護人口：　５７　人
●家屋　：　１４　棟　●事業所　：　４　棟　●公共建物：　２　棟

4．関連する事業

事業名	事業主体	事業期間	事業費（百万円）	事業内容
地域づくり総合交付金事業	東しゃこたん漁協	R1年（2019年）	1	エゾバフンウニ育成推進

Ⅳ　事業の実施状況

1．進捗状況

（1）事業実績及び今後の計画

施工（工種）区分	工事内容	30	R1	2	3	～	10	進捗状況	事業費（百万円）
護岸（改良）	L＝276.8m				L=276.8m			0%	1,700
測量設計費	測量、調査、設計							9%	399
用地補償費	用地買収、物件補償							0%	1

（2）進捗状況

Ｒ１０年度（2028年度）完成予定。
今後の事業進捗にあたっては、特に大きな支障はなく、事業期間の延伸後は予定どおり完了する見込み。

b

a：概ね予定どおり実施している。
b：事業計画（期間）等を変更し実施する。
c：問題が生じ、実施に支障をきたしている。

2．事業効果

経済効果の内訳（百万円）項目	R2現在	費用の内訳（百万円）項目	R2現在	B／C R2現在
浸水防護便益	8,188	総事業費	1,634	
		維持管理費	150	
合計（B）	8,188	合計（C）	1,784	4.59

事前評価時　：平成30年度
事前評価時Ｂ／Ｃ：6.71
変更理由　：地盤条件の変更に伴う杭長延伸などにより事業費が増加したため。

備考
・「海岸事業の費用便益分析指針（改訂版）（R2年(2020年)4月一部更新）（農林水産省・国土交通省）H16年（2004年）6月」に基づき算出。
・便益、費用ともにＲ２年(2020年)に現在価値化
・費用は、現在価値化及び50年間の維持管理費の計上により総事業費と異なる。

3．コスト縮減などの取組

取組の項目	取組内容	縮減額（百万円）
代替案の比較	変更後の内容で代替案（上部式工法）を比較。最安価となる現工法を採用。	238

Ⅴ 評　価

1．必要性	●本事業は、海岸保全施設背後にある民家などを高潮による浸水被害から防護するため、老朽化対策や越波対策を講じるもの。 ●事業の必要性に変化はなく、着実に事業の推進を図る必要がある。
	a　a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。　b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。
2．事業を推進する上での課題	**（1）環境上の配慮及び課題** ●周辺は汀線の変化が少なく、海浜は安定しているため、当該事業による海岸侵食への影響はない。 ●護岸前面の藻場環境に配慮した施設配置計画としている。 ●施工箇所に住家が近接するため、工事による騒音・振動の抑制に配慮し工事を実施することとしている。
	（2）事業推進に対する住民の動向 ●高波浪時の越波や津波に伴う施設倒壊の不安があるため、地元住民より早期完成を強く要望されている。 また、町から道へ海岸保全施設の整備について、早期事業完了の要望がある。
	（3）その他の課題 ●特になし。
3．事業達成の見込み	●地元調整も円滑に進んでおり、Ｒ１０年度（2028年度）の完成に向け順次事業の進捗を図る予定。
	a　a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b：課題はあるものの達成は可能である。 c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。
4．対処方針	●事業の必要性が高いことから、早期完成を目指し事業を推進する。
	a　a：継続　b：終了　c：休止　d：中止

事業期間の変更の有無	有	事業費の変更の有無	有	事業内容変更の有無	目的・規模等に係る変更	左記以外の変更
					有	有

Ⅵ 備　考

1．評価履歴	
2．その他の取組事項	

補足資料

Ⅶ 事業計画変更

（単位：百万円）

事業期間		再評価	事業採択	着手	変更年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累積事業費(b)	進捗率(b)/(a)
	事前評価又は当初		H31 (2019)	H31 (2019)		H35 (2023)			980	441			
	変更①	1回目		R1 (2019)	R2 (2020)	R10 (2028)			2,100	945	0	35	2%
	変更②												
	変更③												
	変更④												
	変更⑤												
	変更⑥												
	変更⑦												
	変更⑧												
	変更⑨												
	変更⑩						1						

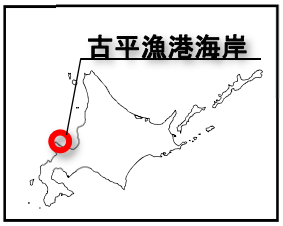
変更理由・内容	変更①：事業費の増及び事業期間の延伸 (1)当初は、事前地質調査１孔を基に杭長を決定したが、採択後の詳細地質調査３孔の調査結果により、杭長が大幅に伸びたため。 杭長 当初：12.9m → 変更後：24.1m (2)(1)により年間施工可能延長が減となり、工事諸経費が増嵩したため。

事　業　概　要　図

古平漁港海岸　海岸堤防等老朽化対策事業

【事業目的・目標・効果】

古平漁港海岸は古平漁港の北側に位置し、当地区の海岸保全施設は、昭和４０年代に築造され５０年ほど経過しており、施設の老朽化が著しい状況である。また、高波浪時には施設からの越波が生じていることから、護岸の改良を行い、施設の老朽化対策と越波対策を講じるものである。



浸水域

◆古平漁港海岸

○事業種別	漁港海岸保全事業（海岸堤防等老朽化対策事業）
○事業期間	Ｈ31年(2019年)～Ｒ10年(2028年)
○総事業費	21.00億円
○事業内容	護岸（改良）L=276.8m
○事業効果	防護区間：276.8m、防護面積：3.3ha、防護人口：57人 家屋：14棟、事業所：4棟、公共建物：2棟

【老朽化状況・越波状況】

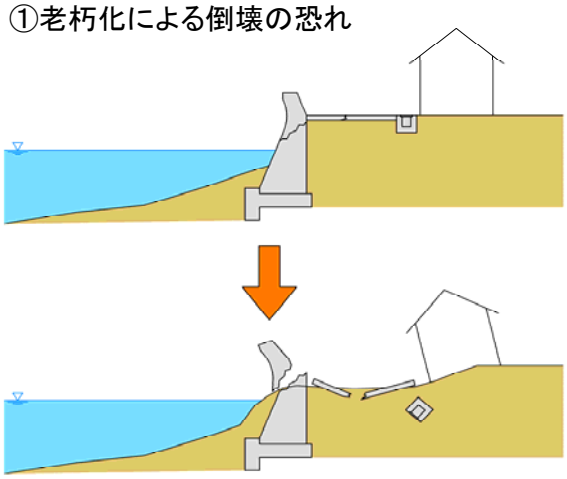
・既設護岸の老朽化が確認され、高潮時には越波が生じている。

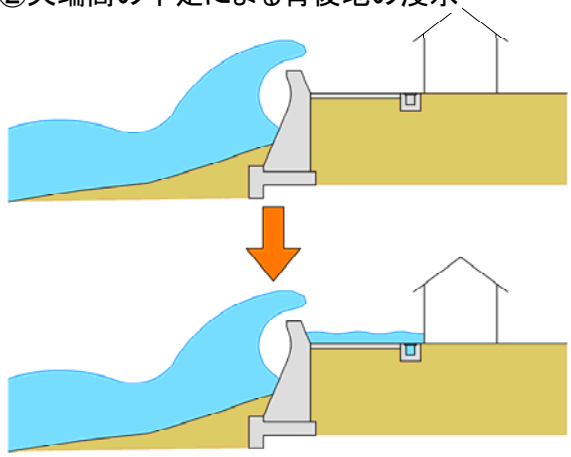
既設護岸の老朽化
（H29.8 撮影）

①老朽化による倒壊の恐れ

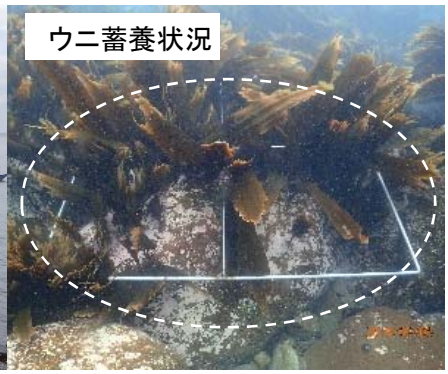
時化状況写真
（H29.10撮影）

②天端高の不足による背後地の浸水





【施設整備の制約条件】
・施設前面には良好な藻場が形成され漁場として利用されている。
・漁業者の意向や海域としての藻場の重要性を勘案し、藻場の消失を伴う
施設改良は不適である。
・このため、消波工の設置や大幅な施設法線の海側への前出しを行えない状況にある。

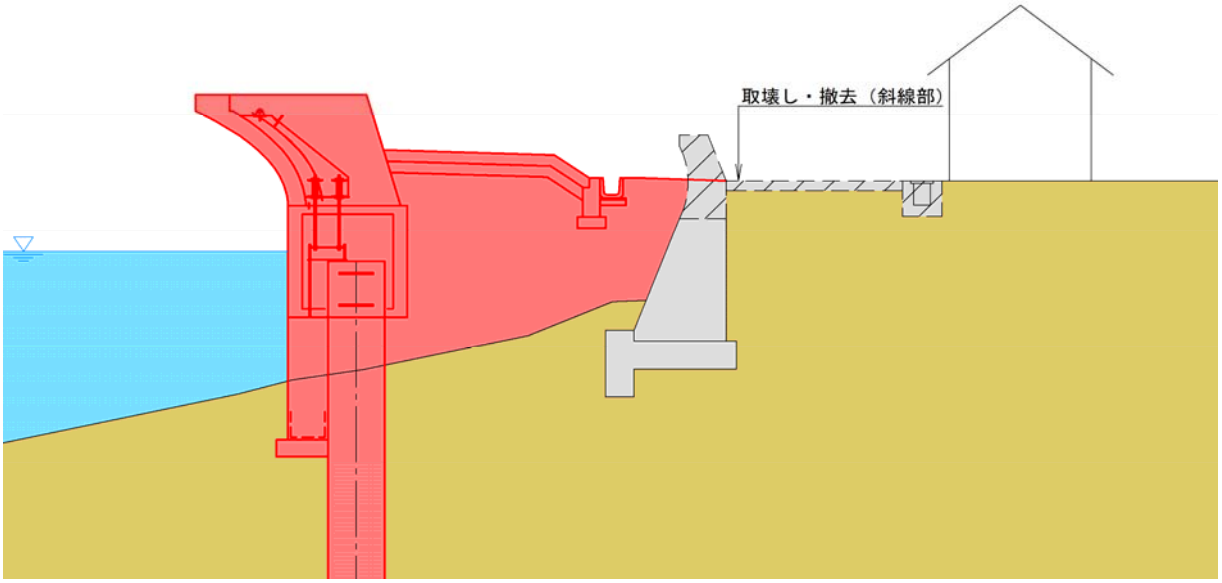


・既設護岸背後は建物が密集し、施工スペースが限られる。
・老朽化対策及び越波対策には、既設護岸より海側へ前出しして護岸嵩上げの
改良整備が必要である。

【海岸護岸の整備】

・自立杭式構造の採用　⇒　前だし幅を抑制すると共に、藻場を保全し漁場を確保する。

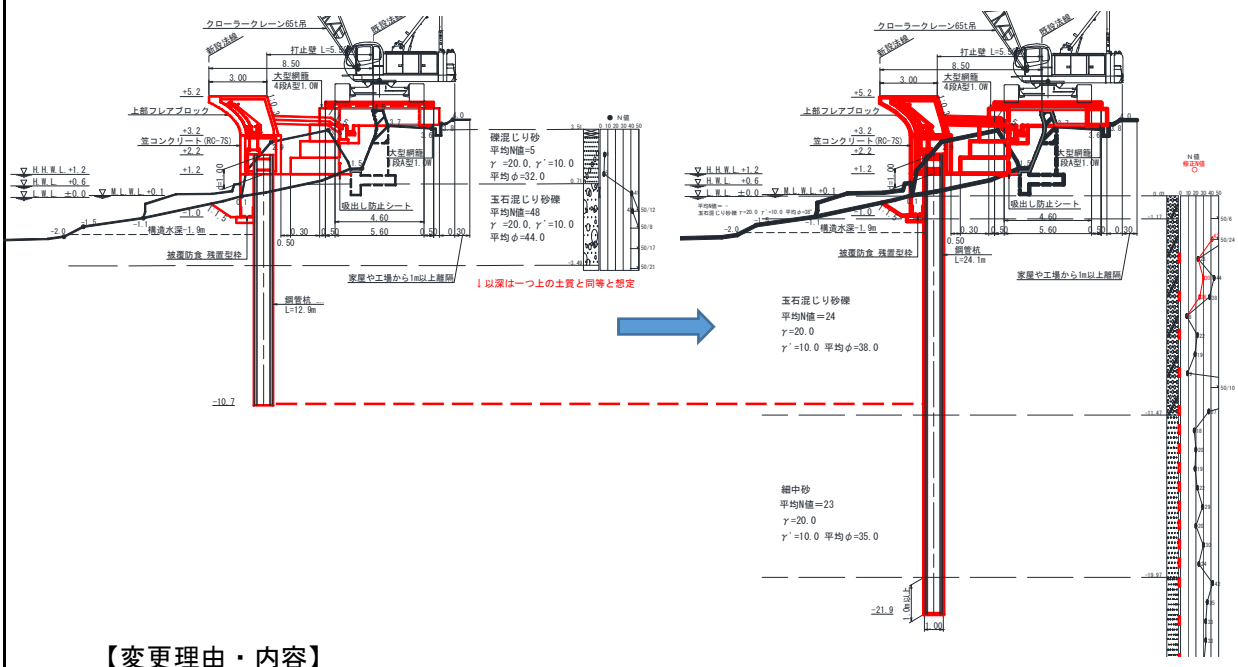
・整備後　⇒　護岸嵩上げ改良整備による、老朽化対策及び越波対策により、施設の機能
回復と高波から背後地を防護する。



【断面図】

(当初)
計画事業費　980百万円
事業期間　H31(2019)～H35(2023)

(構造見直し後)
計画事業費　2,100百万円
事業期間　H31(2019)～R10(2028)



【変更理由・内容】

事業費の変更及び事業期間の延伸

（１）　当初は、事前地質調査１孔を基に杭長を決定したが、採択後の詳細地質調査３孔の調査結果により、杭長が大幅に伸びたため

（２）（１）により年間施工可能延長が減となり、工事諸経費が増嵩

【海岸堤防等老朽化対策事業における受益区域】

事業効果					
経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)		B/C	備　考
浸水防護便益	8,188	事業費	1,634	4.59	費用は、現在価値化への置き換えと50年間の維持管理費を含んでいることにより総事業費と異なる。
－	－	維持管理費	150		
合計(B)	8,188	合計(C)	1,784		

アウトカム				
防護面積(ha)	防護人口(人)	家屋(棟)	事業所(棟)	公共施設(棟)
3.3	57	4	4	2

護岸(改良)　工事費	
数　量	L=276.8m
金　額	2,100　百万円